



# 郷小だより

茅ヶ崎市立浜之郷小学校

2023年1月10日

1月号

校長 木村 千裕

## 学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～

子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

令和5年（2023年）の新しい年を迎えました。新春のお慶びを申し上げます。保護者の皆様、地域の皆様にとりまして、素晴らしい一年になりますように心よりお祈り申し上げます。本年も、学校教育目標「支えあう・聴きあう・学びあう」を大切に、子どもたち一人ひとりが持てる力を最大限に発揮できるよう教育活動を展開してまいります。そして、保護者の皆様、地域の皆様と共に手を取り合って、子どもたちの成長を支える「学びの共同体」として歩を進めてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



さて、今年の干支は「卯」です。卯はその跳躍する姿から「飛躍」、「向上」を象徴するものとして親しまれてきたそうです。また、卯の字には「植物の成長」という意味もあり、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。新たな年の始まりという節目に、そして、残り3ヶ月で6年生は中学校へ進学、1年生から5年生は一つ上の学年に進級することを踏まえて、子どもたちには自分自身の目標を立て、その目標に向かって行動をしてほしいと思います。目標に向かってコツコツと努力を積み重ねたり、諦めずに取り組んだりすることで、成長を感じ新たな自分に出会うことができます。そして、その成長できた自信が次の挑戦への意欲に繋がっていくと思います。



12月23日の全校集会（放送）で、「言葉」について話をしました。その内容は、「乱暴な言葉」や「汚い言葉」を耳にすると心が痛み、悲しい気持ちになること、そして、その言葉を聞いている周りの子ども、先生と同じように心が痛み、悲しい気持ちになっているかもしれないことです。言葉は魔法のようなもので、たった一言で人の心を傷つけることもあれば、たった一言で人の心を温めることもできます。だからこそ、言葉を大切に使うしてほしいと伝えました。話をしながら、改めて子どもたちの身近な存在である、我々大人が良きお手本を示す必要を感じました。子どもは大人の鏡であるとも言われます。私たちが鏡たると子どもの目指す姿であることを意識して、その姿を示していく必要があると考えます。

昨年末、5年生が学校の大掃除をしてくれました。各クラスの中でグループを編成し、自分たちで考えた、普段は誰も掃除をしないようなところでは、例えば、校庭のブランコや図書室の本棚の上などです。寒い中、冷たいスポンジやたわしで汚れを落とすために一生懸命こすったり、雑巾で拭いたりする姿がとても素敵でした。5年生の皆さんありがとう。

